

第 5 学年

総合的な学習の時間

日本によさを語り、西田から世界に発信しよう (2/30)

平成 28 年 12 月 7 日(水) 第 5 校時
杉並区立西田小学校 第 5 学年 2 組 27 名
授業者 /

単元目標

- 日本の「よさ」を考え、追究する活動を通して、大切にされている日本独自の「よさ」を知り、誇りをもつとともに、日本に対する愛着と自分への自信をもつことができる。
- 日本の「よさ」について追究し、関わりを広げながら発信することができる。また、日本の「よさ」を守っていくために必要な課題に継続的に取り組もうとする意識と行動力を培う。

児童の実態

本学年の児童は、非常に面白で、何事に対しても一生懸命取り組む。そのため、基礎・基本的な学習内容や学校行事など、教師助意することについては、きちんと習得することができる。また、友達と仲良く過ごしたり、相手に共感したりすることもできる。

反面、言われたことはできるが、自分で考えて行動することや、考えを周りに広げていく力が弱い。また、自分に自信がなく、大人の了解を取り、安心しないと先に進むことができない。友達鄰組ごとにても同様で、遠慮しながら、思ったことをきちんと伝えられない児童も多い。

このような実態から、総合的な学習の時間においては、「よさ」を見つけることを軸に、周囲に発信する活動を積極的に取り入れてきた。まずは、自分の考えをもつことを大切にし、自分の考えの根柢を追究する活動を通して、自信をもって周囲に発信するという段階を踏んで指導を積み重ねてきた。児童は、友達の考えに非常に興味があり、考えを広げていく力は身に付きつつある。また、本学年児童のよさである共感する力も深まっている。しかし、実際に行動に移すことはまだ苦手であり、全教科・全活動を通して、自ら問題を見出し、行動できる力を養いたいと考える。

単元観

本単元では、1学期から続いている「よさ」を見つける活動を軸に、考えを広げ、自分たちから発信する力をさらに伸ばしたいと考える。また、問題を自ら見つけ、問題の解決に向けて、自分が何をすべきか、どう行動するべきかを考え、実際に行動できる資質を養いたいと考える。

1学期は、杉並の「よさ」について、まずは自分の考えをもち、追究活動を行った。杉並の「よさ」を感じながらも、それが周りからみたらどうなのかという疑問ももった。10月の富士移動教室では、富士周辺の「よさ」に視野を広げ、現地の方や「富士山レンジャー」の方の本話を伺い、「よさ」には、それを守るために課題もあるということを学んだ。富士周辺の「よさ」について追究する活動では、移動教室での体験や交流を生かした考えに広げることができた。杉並や富士周辺の「よさ」については、オイスカ主催のインドネシアとフィジーの環境親善大使との交流で発信する場を設けた。交流を通して、外国の方から見た日本についても知ることができ、日本や世界に対しての興味・関心が高まっていくところである。

本単元では、杉並、富士と広げてきた対象を日本にまで広げる。日本の「よさ」、日本独自に守られてきた伝統や、課題について自ら考え発信し、対象を友達から、地域・世界へと広げていくようにしたい。また、オリンピック・パラリンピックを通じて、日本の伝統・文化を大切に思って、諸外国に広げることのできる児童を育たいと考える。

評価規準 (E S D)

重視する能力と態度 [1-ステップ1 2-ステップ2]		
学習過程	ESDで育てたい力	
学びに火をつける▼	進んで参加する態度	1-① 自分たちが日本の親善大使になったら、日本の「よさ」として何を伝えるのかを進んで考えることができる。
	批判的に考える力	1-② 本当に日本の「よさ」と言えるのか、疑問をもって考えることができる。
	多面的、総合的に考える力	2-⑧ 世界文化遺産である「和食」が本当に世界に誇れるものなのかを考えることができる。
調べる▼	多面的・総合的に考える力	2-⑥ 世界から見た日本の「よさ」の理由を考えることができる。
	コミュニケーションを行う力	1-③ 追究するテーマを決め、なぜ日本の「よさ」と言えるのか、自分の考えをもつことができる。
	つながりを尊重する態度	2-⑦ 各都道府県の観光課へ問い合わせたり、取材したりしながら、各都道府県の「よさ」を調べることができる。
まとめる▼	未来像を予測して計画を立てる力	2-⑨ 和食器について知り、日本の伝統文化を尊重し、大切にしようとする態度を身に付けることができる。
	進んで参加する態度	1-④ 日本の「よさ」の共通点や「日本らしさ」について自分の考えをもち、その「よさ」を守るためにできることを考えることができる。
	多面的、総合的に考える力	2-⑩ 追究してきた日本の「よさ」を生かしながら、外国の方に「おもてなし」する方法を話し合うことができる。
伝え合う	コミュニケーションを行う力	2-⑪ 追究してきた日本の「よさ」を生かしながら、外国の方に「おもてなし」する様々な方法を考えることができる。
	他者と協力する態度	1-⑤ 自分たちの考える日本の「よさ」を保護者や地域の方などに向けて発信することができる。
		2-⑫ 外国の方を「おもてなし」し、自分の考えを伝えるとともに、外国の方を積極的に交流することができる。
		2-⑬ 日本の「よさ」を守っていくために、周りの人々と協力・協同して行動することが大切だということに気付き、継続的に取り組もうとする態度を身に付けることができる。

第5学年

総合的な学習の時間

日本によさを語り、西田から世界に発信しよう

(単元計画／全 30 時間)

平成 28 年 12 月 7 日(水)第 5 校時
杉並区立西田小学校 第 5 学年 2 組 27 名
授業者／ 山田 智美

前単元とのつながり

オスカ子供環境親善大使が感じた、日本のイメージの発表を聞く。

日本によさ、らしさを見つめる(ステップ1)

学習活動①：自分たちが日本の親善大使になったら、何を伝えるか話し合い、日本の「よさ」を考える。(1 時間)㊂

本時

学習活動②：日本の「よさ」について自分の考えや調べてきたことを友達と伝え合い、検討することを通して、学習の見通しをもつ。(1 時間)㊂

留意点

- 自分が調べてくるのではなく、家族などからインタビューを行い、広く調べるようにする。

学習活動③：追究テーマを決め、なぜ日本の「よさ」と言えるのか、自分の考えをまとめること。(4 時間)㊂



留意点

- なぜ「よさ」と言えるのか自分なりに答えを出せるようにする。

学習活動④：追究テーマについての自分の考えを発表し、日本の「よさ」の共通点やそこからわかる日本らしさをまとめ、その「よさ」を守るためにできることを考える。(2 時間)㊂



留意点

- 日本独自、日本流に変えた、大事にしてきたという視点でまとめられるようにする。

学習活動⑤：「わたしたちの考える日本のよさ発表会」を保護者や地域の方、高齢者を招いて行い、「よさ」に対する考え方を広げる。(1 時間)㊂



留意点

- 一人一人が日本の「よさ」に対する捉え方を述べ、経験豊かな方々からフィードバックしてもらい、視点を広げられるようにする。

学びに火をつける

調べる・追究する

まとめる

伝え合う

かかわり、発信する(ステップ2)

学習活動⑥：外国の方が考える日本の「よさ」を考え、なぜ観光にやってきたり、世界遺産に認められたりするのか考える。(1 時間)㊂

留意点

- 日本という内からの視点から、外からの視点へと切り替え、広げられるようにする。

学習活動⑦：全国の観光大使になり、各都道府県の「よさ」を調べる。(3 時間)㊂

留意点

- 各都道府県の観光課などに電話するなどのアポイントの取り方、取材の仕方を指導する。

学習活動⑩：これまでの学習を生かし、外国の方をオールジャパンでとことん「おもてなし」する方法を話し合う。(1 時間)㊂

学習活動⑪：環境に配慮し、日本文化、各都道府県の特色を存分に生かした和定食づくりを考え、オリパラきょうだい国の方々をおもてなしする方法をまとめる。(4 時間)㊂

学習活動⑫：「わたしたちオリパラきょうだい国の方々をおもてなしします！」プレゼン大会を行う。(2 時間)㊂

学習活動⑬：日本の「よさ」を守っていくために、自分がすること、できることを考える。(1 時間)㊂

留意点

- プレゼンテーションをする際のツールとして ICT や使用表現を精選した英語を用いることができるようになる。また各都道府県の「よさ」も取り入れて紹介できるようになる。

学習活動⑧：食料自給率やフードマイルについて知り、世界文化遺産「和食」が本当に誇れるものかを考える。(2 時間)㊂

学習活動⑨：和食器について知り、和食器で給食を食べる。(2 時間+給食)㊂

留意点

- 栄養士と連携し、和食器、和室（視聴覚室）で食べる体験を行う。

学びに火をつける

調べる・体験する

まとめる

伝え合う

本時の授業デザイン

本時の目標

日本の「よさ」について、自分の考えや調べてきたことを友達と伝え合い、検討することを通して、学習の見通しをもつ。

評価

- 日本の「よさ」について前時であげたもの、調べたり聞いたりしてわかったものを友達と伝え合い、検討することができたか。
- 検討したことをもとに、学習の見通しをもつことができたか。

板書計画 / 留意点

日本の親善大使として、日本の「よさ」を伝えよう。

日本の「よさ」について、どんなものがあるか話し合おう。

出し合いながら…

- ・日本の「よさ」として伝えられるかどうか考える。

★ワールドカフェ方式のやりかた

- ①3人のうち1人(サーパントリーダー)が残り、2人は一緒に他のグループへ移動する。
- ②サーパントリーダーがグループで話し合ったことを伝える。(1分)
- ③残りの2人がサーパントリーダーの話を聞き、考えたことを伝えて、そのことについて話し合う。(3分)

指導上の留意点

ア イメージマップを使い、日本の「よさ」を考える。
自分で考えたもの、調べてきたことをグループで出し合い、イメージマップを作成させる。

授業を見る視点

多面的、総合的に考える力

日本の「よさ」には様々なものがあるということに気づいているか。

1 出し合ったものが本当に日本の「よさ」なのか検討する。

- ①グループで日本の「よさ」を出し合うときに、検討する観点を示す。(日本の「よさ」として伝えられるか。)
- ②完成したイメージマップをもとに、ワールドカフェ方式で意見交換を行う。

批判的に考える力

本当に日本の「よさ」と言えるのか、疑問をもって検討しているか。

学習の流れ

前時で作成した日本の「よさ」についてのイメージマップと、調べてきた日本の「よさ」について振り返る。

T:自分の作ったイメージマップと調べてきたものを比べてみましょう。

C:同じように日本の「よさ」としてあげられているものもあれば、違うものもある。

C:「よさ」はたくさんあった。

日本での「よさ」について、どんなものがあるか話し合おう。

個人でつくったイメージマップ、調べてきたものをもとに、グループで日本の「よさ」についてのイメージマップを完成させる。

T:自分の考えたものや調べてきたものについて話し合いながらグループでイメージマップを完成させましょう。

C:本当に「よさ」って言えるのかな。

- ◆ 「よさ」を出し合うだけでなく、示した観点について、グループで検討し、書き込みながら、イメージマップを作成させる。
- ◆ 1グループ3～4人になるようにグループを設定する。

完成したイメージマップを全体で、共有する。(ワールドカフェ方式)

T:各グループどんなイメージマップができたのか見てみましょう。

C:こんな「よさ」は思いつかなかった。

C:本当に「よさ」と言えるのか気になった。

- ◆ ワールドカフェ方式のやり方について指導する。
- ◆ サーパントリーダーを交代し、2回行う。
- ◆ サーパントリーダーの発表をうけて考えたことや疑問に思ったことを赤で書き込ませる。
- ◆ 交流が2回終了した後、各グループでサーパントリーダーからの報告を行い、最後に各グループのイメージマップを自由に見る時間をとる。

全体で共有したことを振り返る。

T:各グループのイメージマップを見て、どんなことを考えましたか。

C:たくさんの「よさ」があった。

C:まだまだ、知らないことがたくさんあった。

C:くわしく調べて、本当に「よさ」と言えるのか考えたい。

- ◆ 出し合った「よさ」や、検討したことをもとに、調べなければならないことや、調べる方法を考え、次時からの学習の見通しをもたせる。

①
導入

②
展開

③
終末

ESDカレンダー

教科領域	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	季節の言葉 生き物は円柱形 (年間) 書写	古典の世界	千年の釘にいどむ 著作権		日常を十七音で 季節の言葉 活動報告書	明日をつくる わたしたち	季節の言葉 グラフや表を用いて書こう 百年後のふる さとを守る		季節の言葉	わらぐつの中の神様 方言と共に語	
算数					平均 単位量あたりの大きさ		帯グラフと円グラフ				
社会	わたしたちの国土		米づくり							わたしたちの生活と環境	
理科		生命のつながり									
特活	(年間) 係・委員会活動	西フェスを成功させよう	富士移動教室を成功させよう	学習発表会を成功させよう					6年生を送る会を成功させよう		
外国語	世界の国のあいさつ				(年間) 外国の文化や習慣に親しむ活動						
総合	杉並・富士のよさを見つけよう					日本によさを語り、西田から世界に発信しよう					
道徳		命の時間		一ふみ十年		同じ空の下で		正月料理		ブータンに 日本の農業を	
音楽	(年間) 日本と世界の音楽に親しもう										
図工				富士の美しさを絵手紙にかこう							
家庭							元気な毎日と食べ物			エコライフ	
体育			着衣泳						けがの防止		
行事	運動会		西田フェス ティバル		富士 移動教室	学習発表会	連合音楽会			防災館見学	
	たてわり班活動										

